

ペルーの働く子どもたちへ

2020年度

緊急食糧支援報告

奨学金支援報告

オンラインコンサート資料&報告

永山子ども基金

作成：2021年3月



もくじ

ごあいさつに代えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・03
ー ペルーの働く子どもたちへの緊急支援とオンラインコンサート開催の経緯 ー

2020年9月 オンラインコンサート資料&報告

①ドキュメンタリー「ペルーの働く子どもたち物語 VOL.XII」・04
『カハマルカの街角で』クシ・フンク協会

②現地レポート「コロナ禍の中のペルーの子どもたち」・・・・07
報告：義井豊 聞き手：大谷恭子

③アレハンドロ・クシアノビッチ氏メッセージ・・・・・・09
「本質への回帰」（日本語 / スペイン語）

④講演「コロナの時代の、変わらぬ生き方」・・・・・・12
太田昌国

⑤創作劇・コンサートの様子・・・・・・・・・・・・・・・・17

奨学金支援報告

奨学金支援（2019年/2020年）報告・・・・・・18

緊急食糧支援報告

2020年6月 緊急食糧支援(第一弾) 報告・・・・・・20

2021年2月 緊急食糧支援(第二弾) 報告・・・・・・22

◆名刺広告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

◆チャリティーコンサートの足跡・・・・・・・・・・・・29

ごあいさつに代えて

――ペルーの働く子どもたちへの緊急支援とオンラインコンサート開催の経緯――

いつも永山子ども基金の活動にご理解とご支援を戴きありがとうございます。

元死刑囚・永山則夫の遺言により、ペルーの働く子どもたちに彼の印税とコンサート収益などを奨学金として送る活動を2004年から毎年行ってきました。2020年は折からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、時期や形を変えて開催することとなりました。

今回報告書を発行するに当たって、ペルーの働く子どもたちへの緊急支援や「第17回 永山子ども基金チャリティートーク&コンサート―オンライン特別番外編」という新たな形態での開催となった経緯などをご報告させていただきます。

第17回目となる2020年の「チャリティートーク&コンサート」については、同年1月頃にはすでに8月1日開催という日程や会場、出演者などが決定していました。新型コロナウイルス感染症に関しても、国内で最初に感染者が出た1月中旬以降3月中旬くらいまでは、感染者が徐々に増えてはいたのですが、それほど大変な事態になることなど予想もしていませんでした。

しかし4月初旬から急速に感染拡大が進み、7日には東京都など7都府県、16日には全国に緊急事態宣言が出されるに至り、8月開催の可否を真剣に検討する必要が出てきました。

一方、私たちは2020年5月にスタッフをペルーに派遣する計画を前年から進めていたので、ペルーの新型コロナウイルス情報には関心を持っていました。日本で感染が徐々に広がっていた1～3月にかけてはペルーには感染者が出ておらず、スタッフ派遣には影響はなさそうだと安心していました。

しかしペルーでは最初の感染者が出た3月初旬から感染は急速な勢いで拡大し、16日には大統領による国家非常事態宣言が発令され、国境封鎖、空港封鎖、外出禁止などの措置をとられました。その後も感染拡大の勢いは増し、宣言が繰り返し延長されるに至ってスタッフのペルー派遣は断念しました。

同時に新型コロナウイルス感染症拡大と国家非常事態宣言下で、子どもたちの両親も子どもたちも仕事を失い、毎日の食事もままならないほど困窮の度を深めているとの報告を受け、緊急に120万円の食糧支援を行いました(20ページ参照)。また、日本国内での今後の感染状況も予断を許さないことから、大勢の観客を集める形でのイベントは取りやめ、日程も見直し別の形での開催を模索することにしました。

そんな中で出てきたのが、より多くの人々にペルーの子どもたちの現状を知ってもらうとともに、ペルーの子どもたちへの支援第2弾のカンパを得られるようにと、現地報告のライブ中継や国内のスタジオでのイベントなどをオンラインで同時配信するという企画でした。

原則無観客イベントでしたがネット配信の影響もあったのか、2020年4月1日から2021年3月末までにコンサート収入以外に640,020円ものご寄付を頂きました。心から感謝申し上げます。おかげで緊急食糧支援(第2弾)として70万円を送ることができました(22ページ参照)。また、4月には今回のチャリティイベントの収益と印税収入からなどから90万円を送ることもご報告いたします。

2021年も7月31日(土)に予定している「第18回チャリティートーク&コンサート」がどのような形で開催できるかわかりませんが、スタッフ一同検討を重ねているところです。

日本国内でも新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、皆さまには不便な生活を余儀なくされていることとは思いますが、今後ともペルーの貧しい子どもたちへのご支援、ご協力を頂ければ幸いです。

2021年3月

永山子ども基金 代表 大谷恭子

オンラインコンサート資料&報告

2020年9月27日、東京都北区十条の「ダイニング街なか」をスタジオに、オンラインにて永山子ども基金チャリティーコンサートを開催しました。集まったご寄付は、緊急食糧支援や奨学金支援の一部としてペルーの働く子どもたちへと送っています。ご協力・ご参加いただき、ありがとうございます。

共催:公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本/特定非営利活動法人 CrimelInfo / NPO 法人東京シュール/ 神奈川シ
ティユニオン/認定 NPO 法人国際子ども権利センター/ NGO ピースポート/パチャママ基金/ NGO クシ・プンク協会
後援:ダイニング街なか

.....①ドキュメンタリー..... ペルーの働く子どもたち物語 VOL.XII 「カハマルカの街角で」



(取材・撮影：2019年7月上旬)

アンデスの山間部にある町、カハマルカで働く子どもたちの日常を追った。

イサイアスは、レストランやバスでラップを歌い、投げ銭でお金を稼ぐ。市場で働いていた13歳の時に*マントックに参加し、他の地域の子どもの現実を知り、友達を通じて世界が開けたと言う。 *マントック(MANTHOC)：ペルーの働く子どもたちの自治組織

中学1年生、12歳のリスは、4人きょうだいの3番目。家族は、洗車や敷地管理、ヒヨコの飼育販売などで収入を得る。リスは妹の世話や家の仕事をしながら、産科医を夢見ている。

写真や動画撮影、メディアに関心を寄せるダニエル。家族でトウモロコシなど穀物の製粉を生業にするが、1キロあたり10円ほどで、客は1日に1人しか来ない日もあり稼ぎは少ない。

イサイアスは、ラップで訴える。”何もしないで座っていてもペルーは変わらない。ペルーが変わってほしいなら、自分自身が行動を起こさなければいけない”

(撮影編集：森本かなこ/記録・村田千紘)

2020年コロナウィルス蔓延により、ペルーの働く子どもたちの生活にも多大な影響が出ています。2021年は子どもたち自身が撮影した現在の生活の様子を、映像にして伝えていく予定です。

制作：NGO クシ・プンク協会 (Asociacion Cussi Punku)

ペルーの働く子どもたちの発する声に耳を傾け、子どもたちを取り巻く状況を知り、彼らと議論する中で問題の解決に向けた活動を展開している。同時に子どもたちの現状をホームページや映像を通して内外に伝えていく作業も続けている。(代表:義井豊)



『カハマルカの街角で』は[クシ・プンク協会WEBページ](#)からご覧いただけます→

Peru↔Tokyo
オンライン
特別番外編

第17回永山子ども基金 チャリティトーク&コンサート

ペルーの働く子どもたちへ

2020年9月27日(日) 13:00～

東京都北区十条「ダイニング街なか」より  YouTube でライブ配信

コロナ禍の中のペルーの子どもたち

現地レポート

報告 : 義井 豊 (NGO クシ・punk協会代表)

聞き手 : 大谷恭子 (永山子ども基金代表)

会場より生ライブ出演

太田 昌国 (講演「コロナの時代の、変わらぬ生き方」)

水野 慶子 (創作劇「パチャママよりコロナ禍の子どもたちへ」)

小川紀美代 (バンドネオン演奏「祈り」)

宇佐 照代 (アイヌ民族楽器ムックリ・トンコリ「継ぐ」)

録音・録画による特別出演

木下 尊惇 (ギター・チャランゴ「希望～Esperanza」)

映画

「ペルーの働く子どもたち物語 vol.12」

なお  YouTube でのオンライン視聴はどなたでも

9月27日(日)より10月11日(日) 23:59分までの2週間可能です。

配信にあたり皆さまからのご寄付を **1口2,000円** から受け付けております。

(イベント開催経費をのぞき、ペルーの子ども支援の資金になります)

それ以上のペルーの子ども支援のためのカンパは **無制限で随時** 受け付けております。

お振り込み等の方法はホームページで紹介している郵便振込のほか

オンライン決済 (passmarket) もあります。passmarket はコンビニ支払い、クレジット支払いが選べます。

詳細はホームページやフェイスブックなどで随時お知らせいたします。

ホームページ <https://nagayama-chicos.com/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/nagamakodomo/>



主催 : 永山子ども基金 共催 : 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 / 特定非営利活動法人 CrimeInfo / NPO 法人東京シュール / 神奈川シティユニオン / 認定 NPO 法人国際子ども権利センター / NGO ピースポート / パチャママ基金 / NGO クシ・punk協会

後援 : ダイニング街なか

画 井江春代



緊急現地レポート！コロナ禍の中のペルーの子どもたち

ドキュメンタリー映画「ペルーの働く子どもたち物語」も上映します。ぜひ観てください。



報告
義井 豊 (写真家)



岩波映画製作所写真部契約カメラマンを経て、1974年初めてペルーを訪れる。以後、毎年ペルーを中心に中南米を取材。82年リマに転居し83～90年リマの天野博物館職員、90～96年共同通信リマ通信員としてペルー各地を取材。同時にシカン学術調査団員としてペルーを中心に中南米の考古遺物、遺跡、美術工芸品の撮影に従事。

NGOクシ・プンク協会代表

聞き手
大谷 恭子 (弁護士)



連合赤軍事件、アイヌ民族肖像権裁判、地下鉄サリン事件、日本赤軍事件などを担当。主な著書に『それでも彼を死刑にしますか——網走からペルーへ 永山則夫の遙かなる旅』（現代企画室）、『共生社会へのリーガルベース——差別と闘う現場から』（現代書館）などがある。永山子ども基金代表。



講演 「コロナの時代の、変わらぬ生き方」



太田 昌国 (おおた まさくに)

編集者として人文書の企画・編集に携わる傍ら、民族問題・南北問題等についての発言を続けており、死刑廃止運動にも深く関わっている。著書に『「拉致」異論』（河出文庫）『暴力批判論』（太田出版）『チェ・ゲバラ プレイバック』（現代企画室）『【極私的】60年代追憶』（インパクト出版）などがある。



創作劇 「パチャママよりコロナ禍の子どもたちへ」



水野 慶子 (みずの けいこ)

役者。1982年～93年、テント芝居『風の旅団』に参加。以後、『独火星』などに出演。金時鐘 詩の朗読ライブ『ここより遠くより このここに近く』（2008年）『四月よ、遠い日よ』（2011年）に朗読で出演。2012年『第9回永山子ども基金チャリティーク&コンサート』より朗読で出演。

私たちはペルーの働く子どもたちを応援しています



「祈り(いのり)」

小川紀美代 (おがわ きみよ)

ほぼ独学で奏法を学ぶ。アルゼンチン最大の音楽祭コスキンフェスティバルに日本代表として2度の出演、在ボリビア日本大使館事業コンサートなど南米縦断ツアー。伝説のマエストロ、アニバル・トロイロの愛器でのブエノスアイレス録音と日本ツアー。ジャンルを超えた独自の演奏スタイルはアジア各国、ヨーロッパなどでも高く評価される。

「希望(きぼう)～Esperanza」

木下 尊惇 (きのした たかあつ)

12歳の頃からアンデス音楽に魅かれ、ケーナ、チャランゴ、ギターなどを独習。82年チャランゴ奏者エルネスト・カプールの招きでボリビアに渡る。カプール・トリオのギタリストなどを経て、86年よりボリビアのグループ「ルス・デル・アンデ」のリーダーとなる。カプールと共に、映画「橋のない川」の音楽を制作。NHK「美しき日本～百の風景」ではテーマ音楽を担当。「ボリビアを知るための73章」（明石書店）、「中南米の音楽」（東京堂出版）に執筆。



「継ぐ(つなぐ)」

宇佐 照代 (うさ てるよ)

北海道釧路市生まれ。10歳から関東にてアイヌ伝統舞踊やムックリ（口琴）などを習う。北海道ムックリ大会にて2年連続優勝。（財）アイヌ文化振興・研究推進機構アイヌ文化アドバイザー。東京でアイヌ料理店「ハルコロ」を運営。



ご支援のお願い

ペルーでの新型コロナウイルスの感染は今なお急速な勢いで拡大し、現在の感染者は約65万人。なくなった方も約3万人近くになります。国内では国家非常事態宣言が続き、大人も子どもも働くことさえままならない状況で、貧しい人々はコロナ禍だけでなく飢餓の危機にも直面しています。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



．．．．．②現地レポート．．．．．
「コロナ禍の中のペルーの子どもたち」

報告：義井豊 聞き手：大谷恭子

ペルー・リマ (義井豊) と 東京 (大谷恭子) とをオンラインで繋ぎ、コロナ禍のペルーの状況を聞きました。

①今、ペルーは、どんな状況でしょうか

- ・感染者79万4584人感染死亡者3万2037人（2020年9月25日現在）
- ・政府は死亡率が減ってきたと言うが、施設不足、専門医不足。
- ・中国からのワクチンの治験6000人募集したら10分で締め切った。
- ・7月になって国内線・長距離バスの運行が許可されたが、感染の拡大で2週間で一旦撤回された。
- ・国際線は2020年3月中旬から閉鎖され、それぞれの自国に戻りたい人のための人道的飛行以外は鎖国状態が現在まで続いている。
- ・2020年3月16日以来の国家非常事態宣言は2020年10月31日まで延長される。年内継続可能性あり。



②市民生活はどんな打撃を受けていますか

*子どもたちの訴え

- ・親にも子どもにも仕事がなくなり、わずかな蓄えも食べ物を買うお金もなくなった。
- ・「ウイルスが私を殺さなければ、空腹が私を殺すだろう」
- ・コロナ以外の病人が病院にいけない。
- ・政府からの貧しい層／必要な人へ支援が届いていない。
- ・ネット環境や機器がなく、オンライン授業が受けられない子ども達がたくさんいる。
- ・ストレスが元で家庭内暴力が増えている。

③4月に入って子ども達から仕事ができなくなり食料が買えなくなったとの訴えが届きました。私たちは6月3日に食料支援金として120万円送金しましたが、お役に立っていますか

- ・ 緊急支援として、働く子ども支援グループ・マントックを通して10地方15カ所へ。
- ・ 食品の内容は、米、砂糖、牛乳、レンズ豆、エンドウ豆、麺類、魚缶詰、油、卵、鶏肉、マカロニ、ジャガイモなど。
- ・ 291家族・1164人の人たちに食糧支援を実施した。一日一食しか食べられない時があるため、緊急対策として大いに役立った。
- ・ 支援を受けた食料は、近所の人と食材を持ち寄って共同鍋を作り、さらに広い人たちへ提供して連帯しているとのことだ。

④今まで支援してきた子どもたちはどうしていますか

- ・ 仕事ができるようになったが、収入は以前の1～2割くらい。
- ・ 隔離期間が半年を過ぎて、子ども達からの最近の訴えでは、学校に行けないこと、オンライン授業に参加できないことが一番の大きな悩みようだ。



⑤これから何が必要でしょうか

- ・ 食糧支援と学業支援

⑥最後に、日本の皆様に何か一言メッセージをお願いします

ペルーの多くの子ども達が歯を食いしばって家庭を維持してきました。今回のコロナ感染症の蔓延は、その子ども達が自らの環境・置かれている場所、その抱え込んだ貧困さ加減を再確認している時間です。少しでも彼らの生活に役立つ支援を継続できたらと思います。

．．．．．③メッセージ（日本語）．．．．．

「本質への回帰」

アレハンドロ・クシアノビッチ氏

“本質への回帰”

新型コロナウイルスの世界的大流行（によるペルー政府の措置で）、全ての国民が分け隔てなく自宅待機となった。しかし皆が外出禁止となった今、大きな格差は解消されるどころか、ペルー人は社会・政治的に同等でないことがより鮮明になった。

「自宅待機」と言っても、豪邸で過ごす者もいれば、働く子どもたちのように、一部屋しかない掘立小屋で、詰め込まれるように寝起きしなければならない者もいる。Villa Maria区やSan Jose Obrero学校の働く子どもたちの大半が、このような劣悪な住環境だけでなく、水不足による衛生問題や、子どもに与える食料の確保を巡って喧嘩する両親を見なければならぬ不安の中で暮らしている。

いつも地域や学校、PROMINNATSプロジェクトでの小さな働きで家計を助けていた子どもたちの重要性が改めて分かる一方で、（子どもの外出は禁止されている）今は、働く子どもたちも、両親（がいる場合だが）や母親が調達できるものか、何らかの社会プログラムに依存する状態となっている。

しかし悲劇一色というわけではない。働く子どもの中からは「家族全員と一緒に過ごすことは滅多になかった。父親とゆっくり話をできるのは初めてだ、彼は私たちの生活ぶりを何もしらなかった。」「今までは点数にしか注目していなかった両親に、宿題を手伝ってと頼んでいる。」「不安が大きすぎて、（親は）大変な思いをしている。」といった声が聞こえてくる。

一体、このウイルスはどこからやって来たのだろうか。（外出禁止による）隔離状態は、人間は自己責任のもとで生き、それぞれ問題解決すべきという個人主義社会のシンボルではないだろうか？或いは貧しい者は、疫病で死ぬ危険があるときだけ、寛大な顔で政府が施す支援策を待っていなければならないのか？

「私たちは皆平等だ」「仕事があるのは、親切にも会社が仕事をくれるからだ」「露天商は国の経済を破壊する」などの一連の神話、「子どもの居場所は学校や家庭であり、働くべきではない」といった奴隷廃止論者の主張のすべては、今回の出来事で崩れ去った。確かなのは疫病が去った後、私たちは皆働きにでなければならないということだ。

働く子どもたちは今、「児童労働反対のグローバルマーチは、どのような見解か」「Telefonica社や同社の児童労働反対プログラムは何をしているのだろうか」と問いかけている。San Jose Obando学校の生徒の殆どは移民である。首都で成功する夢が失われ、飢えや感染を避けるため、歩いてでも帰郷することを決意したHuancavelica県出身者はその一例にすぎない。

問題の本質は、新自由主義モデルがどのような「人間」を産み出したかという点だ。今必要とされるのは、原点への回帰、「人間」を中心に据えることである。倫理や政治の軸を、富の蓄積、金、野心ではなく、人間性とするのである。これは、新型コロナ流行前の状態に戻ることを意味するのでも、経済モデルを損なうことなく経済再生を行えるのだという偽りを信じていることでもない。まして、農民と大地が育てた農作物をペルー国民が日々の糧とする中で、前エネルギー鉱山大臣が「経済再生の要は鉱業だ」と発言することは、大きな的外れだ。

ロックダウンにより足止めされた人々に対する「人道的航空便」「人道的バス」などのフレーズが聞かれるが、これらは一時的な措置にすぎない。今必要なのは、人類の転換期に参加し協力することだ。地球上に残る全ての人間性、尊厳、地球の全ての生命への愛を思考の原点として、「全ての生命に属する地球で、今後も共存していくことができるだろうか」との問いに答えなければならない。

新型コロナ大流行への戦線を築いているのは、世界の人々に未だ残っている人間性である。この人間性こそが、先の問いに答えることは倫理的・政治的に可能だということを示す希望である。

働く子どもたちは、この冒険の一部であり、これからも参加しつづけることを望んでいる。

2020年4月17日 リマ ペルー
アレハンドロ クシアノビッチ ビジャラン

村井裕子/翻訳

..... ③メッセージ (スペイン語)

“ VOLVER A LO DEFINITIVO ”

アレハンドロ・クシアノビッチ氏

La Pandemia no ha hecho distinciones y nos ha obligado a todos a refugiarnos en casa. Pero no nos permite superar las desigualdades profundas, por el contrario, aquí, se ve con mayor evidencia que los habitantes de este país no somos iguales socialmente, políticamente.

Todos en casa, pero unos en mansiones lujosísimas y otros como las niñas y niños de nuestros barrios, en verdaderos tugurios de un solo cuarto donde deben permanecer y pernoctar asinados. Por ejemplo, la mayoría de NNATs de Villa María y de la Escuela San José Obrero, no sólo están en esas condiciones, sino que además de cuestiones de higiene por la falta de agua, o de tranquilidad por ver que sus padres pelean por las angustias que crea el buscar qué darles de comer... Pero también la impotencia de las niñas y niños que siempre colaboraban con su familia gracias a sus pequeños trabajos en el barrio o en la escuela o en su proyecto PROMINNATs, y ahora sentirse dependientes de lo que su mamá o ambos, si existen, les pueden alcanzar o si algún programa de solidaridad los alivia.

Pero no todo es tragedia. Hay NNATs que dicen, “nunca casi estábamos todos juntos en casa, ahora puedo hablar con mi papá, me pregunta, dialogamos”. “Eso no lo hacíamos antes y ni enterado estaba de nuestras vidas”. Pero también, “les pido que me ayuden a hacer los deberes del colegio...antes solo se fijaban en la nota” y “les cuesta por estar tan preocupados por lo que se está viviendo”.

Bueno, esta Pandemia nos obliga a preguntarnos, ¿de dónde salió ese Virus? ¿No será que estar encerrados, aislados, sea un símbolo de lo que pasa en la sociedad, individualista, cada quien debe enfrentar la vida como pueda y resolver sus problemas? O ¿los pobres deben esperar obras de asistencia como si el Estado fuera buena gente solo cuando estamos en riesgo de que la Pandemia nos lleve al crematorio? Y es que hay una serie de mitos que se caen.

No es verdad que somos iguales, que el trabajo es porque hay empresas que son buenas y nos dan trabajo, o que trabajar como ambulantes es atentar contra la economía del país, o que los niños debemos quedarnos en la escuela y en la familia y no ir a trabajar como predicán los abolicionistas. Lo que vemos es que, terminada esta situación, todos tendremos que trabajar para salir adelante.

Los NNATs se preguntan, y “¿Qué dice ahora el Movimiento Global contra el Trabajo Infantil? ¿Qué hace Telefónica y su fenecido programa Pro-Niño contra los NNATs? Las familias de los niños y niñas de San José Obrero son mayormente migrantes. El sueño de la ciudad, de la capital se ve seriamente desdibujado. Centenares de migrantes de Huancavelica, por ejemplo, decidieron volver a sus tierras, incluso a pie, para evitar el hambre, el contagio y cobijarse.

Lo que está en juego es qué humanidad el sistema y modelo civilizatorio capitalista y neoliberal ha producido. Lo que toca es volver a lo definitivo: colocar al humano al centro, a instaurar el principio de humanidad como el eje de la ética y política y no la acumulación, el dinero, la ambición. No se trata de volver a reconstruir lo que se tenía antes de la Pandemia; ni engañarnos que la reconstrucción la economía se hará sin poner en riesgo el modelo hegemónico. Ni mucho menos lo que un ex-ministro de energía y minas de este país, declarara que la minería sería la que podría ser decisiva para la reactivación económica, cuando el país come de lo que produce la Tierra y los campesinos.

Ahora escuchamos, “vuelos humanitarios”, “buses humanitarios”. De lo que hay que ser conscientes es que eso es circunstancial. Se requiere sumarnos al giro epocal humanista que requerimos. Estamos llamados a hacer de la reserva de humanidad que queda en el mundo, de dignidad y de amor a la vida, a toda vida, también la del Planeta, el punto de partida para refundar el pensamiento, reencantar por una posibilidad real de responder Sí a la pregunta, ¿Podremos vivir juntos en esta Tierra de todos y todas?

La Pandemia ha permitido constatar que esa reserva de humanidad de tantísima gente en el mundo entero para hacerle frente, es la esperanza de que la respuesta es ética y políticamente posible.

Los NNATs son y quieren seguir siendo parte de esta aventura.

17 Abril 2020 Lima Peru
Alejandro Cusianovich Villaran

．．．．．③講演．．．．．

「コロナの時代の、変わらぬ生き方」

太田昌国

皆さん、こんにちは。いつもなら150人から200人くらいの参加者を前にお話するのですが、きょう、この急ごしらえのスタジオにいるのは出演者の皆さん、スタッフ、わずかなお客さん、合わせて20人足らずの方です。オンラインでどのくらいの方がご覧になっているのかわかりませんが、この方法は、先ほどのように遠く南米ペルーにいる人とも会話を交わすことができる、しかもどこにしようと視聴することができるという意味で、この時代ならではの画期的で、有意義なものです。同時に私は思うのです。これはあくまでもコロナウイルス感染予防のための臨時的な措置であって、少なくともこの場の在り方は人間同士の交流・会話・集まり方の本来の形ではない、と。やはり大勢の方々と一堂に会し、場を共有したいと強く思います。

電子顕微鏡でしか見ることができない極小の粒子であるウイルス——今回のは新型のウイルスなのですが——それが世界全体を震撼させてから、わずか9か月です。まだ一年も経っていないのです。ところが、どうでしょう。この生物とは呼べない、かといって無生物でもない、目には見えないウイルスが全世界を変えた、変革してしまったのです。例えば、グローバル化——これは、市場経済という唯一の原理で世界全体を支配している現代経済の在り方を指しますが、ペルーと日本がそれぞれ抱える問題を交錯させながら考えてきた私たちは、これを批判的に捉えてきました。しかし、相手は強大で、びくともしない。新型ウイルスは、このグローバル経済の在り方をズタズタに切り裂きました。



グローバル企業の工場も店舗もオフィスも、閉鎖されました。連日連夜、大勢のビジネス客や観光客を運んでいた航空機は完全に止まりました。年間4000万人を迎え入れるのだと日本政府が豪語していた外国人観光客の流れもピタッと途絶えました。ホテルも観光地もデパートも土産物屋も、閑古鳥が鳴いています。

パリ、ロンドン、ベルリン、ニューヨーク、そして東京と、世界の大都市から人影が消えた事態も大きく報道されました。確かに、世界中が様々な意味で、危機に立たされたのです。ここで、大事なことがあります。どの視点から、この危機を捉えるかという問題です。グローバル経済のこれまでの在り方から多くの利益を得てきた大国や大企業から見れば、確かに、これは文字通りの危機です。ですから、日本の報道では、今回の最初の発症例が見られた中国・武漢、それゆえ世界で真っ先に都市封鎖された武漢に焦点が当てられました。航空路も高速道路も封鎖され、公共交通機関も止められ、厳格な外出制限も課されて、経済活動が全く不可能になったのです。ですから、そこに店舗を持つユニ

クロ、無印良品、イオン、工場を持つ日本の自動車工業などの危機が、まずは大々的に報道されたのです。

でも、私たちが、今回の新型ウイルス報道を通じて学んだ大事なことがあります。ウイルスは、人間と異なり、差別意識を持ちません。貧富の差、民族の差、国家の差、性の差、老若の差、階級の差、思想やイデオロギーの差——それらにいっさい配慮することなく、《気に入った》宿主の身体に侵入するということです。ですから、経済力が強い者、国家権力を握っている者、大きなメディアを手中に収めている者など、すでに出来上がっている社会秩序・経済秩序の中で優位に立っている者の視点にのみしがみついているのは、「世界とウイルスの闘い」の全体像が見えてはこないということです。

では、どうするのか。いまだかつてなかったような、ウイルスに純化した大量の報道がなされたのですが、そしてその多くは、強い者の立場からであることは事実です。しかし、目を凝らし、耳を澄ませば、世界をもっと深く、広く捉える材料はあちらこちらにあったと私は思います。具体例を挙げてみましょう。

一つ目。「世界の工場」とまで謳われてきた中国が、日本の100円ショップで売られている品々を多数製造していることは、私たちのよく知るところです。コロナ対策のために、中国の工場の稼働率が下がって間もなく、日本の100円ショップの棚にすき間ができた光景を目撃した方がおられるかもしれません。日本の私たちの関心は、ふつう、そこで止まります。でも、中国は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの途上国で、エイズ、結核、マラリアの3大感染症を防ぐために大きな役割を果たしてきた製品、つまり治療薬、診断キット、蚊帳などの工場でもあるのです。現場で働く人の証言によれば、この3大感染症は一日7000人の命を奪っているといいます。工場閉鎖、交通路の途絶によって、中国からのこれら製品の物流さえもが留まったのです。これらの病に苦しむ途上国はどうなっているのか、気がかりなことです。

二つ目。私たち、いわゆる先進国に住む者の多くは、今回の新型コロナウイルスの蔓延に関して、1918年から20年にかけて世界的に流行したインフルエンザ以来の最大の感染症の流行だと言って、狼狽えています。100年前のことゆえ、その悲劇を知る者はおらず、教訓もほぼ引き継がれておりません。翻って途上国では、新型コロナウイルス以上の威力を持つ病原体がこの間にも多く流行してきました。100年前もの昔のことではなく、21世紀に入ってから起きていたことです。しかし、それは、欧米や日本での出来事ではないことで、全世界が挙げて真剣に取り組むことはなかったのです。「先進国」で流行しない限り、各国政府も世論も製薬会社も研究者も、関心を持たないという従来の在り方をどう捉え返すのか。そのことが問われています。

三つ目。その延長上で言えば、コロナ対策のワクチンの開発問題も重要です。先進国の製薬会社も政府も、どこにも先んじて、有効なワクチンを開発するために全力を挙げています。グローバリズムが拠り所とする競争原理が正しいのかどうか問われているときに、ワクチン開発で競争原理がはたらくままでよいのかと異議を唱える声が必要です。ワクチン開発や有効な検査キットの開発のために国際的な協力体制を作ること、医療分野における知的財産権を廃止することなどの大胆な方針が必要なのです。それは、製薬会社が、利潤を最大の目的とする私企業のみでよいのかという問いに繋がっていきます。夢だよ、理想論に過ぎないよ、すぐにはできないよという現実主義の大声が聞こえてきます。目の前の現実にも異を唱える声は、しばしば、過度に理想主義的に聞こえます。しかし、ひとが罹る病を治すための仕事に、市場原理、すなわち儲け主義の原理がはたらくままでよいのかという問いかけは、世界中の人びとがコロナの脅威と向き合っているいま、ここで、現実主義的なものなのです。

そんななかで、日本政府は、ワクチン開発競争で先行していると伝えられるイギリスのアストラゼネカ社との間で、6000万人分ものワクチンの供給を受けることで合意したと言っています。これは、国内世論向けには喝采を浴びるかもしれませんが、世界レベルで確立されるべき医療・医薬の倫理に悖るといふべきでしょう。世界の人類が共通して取り組み、対等・平等な関係性の下で解決すべき問題に関して、これでは、大事なものを金に飽かして独占するという「国民国家」の論理で動いているにすぎないからです。国家を対外的に代表する政府・政治家のこのようなふるまいを、心底恥じるモラルが、この社会に定着するよう、努力を続けたいと思います。

四つ目。ペルーの働く子どもたちは「難民化」はしていませんが、途上国の大人も子どもも、いつ難民化するかわからない瀬戸際で生きています。世界経済の在り方が生み出す貧困の問題があるからです。現在、世界中には7500万人の難民・避難民がいるといわれています。世界総人口は75億人前後ですから、実に100人にひとりがその境遇にあるのです。驚くべき数字です。先日ギリシャ東部の島で難民キャンプの火災がありました。衛生状態も悪く、「密な」条件下で暮らすことを強いられている難民が、コロナ対策でその狭い空間に閉じ込められたので、それに抗議して放火したという報道がありました。ここに暮らす難民の多くは、アフガニスタン、イラク、シリアの人びとです。米国が先頭に立ってきた「反テロ戦争」、シリアの場合はロシアがアサド政権に加担して遂行してきた民衆弾圧——このような超大国の無責任な方針が難民を生み出す原因になっていることは明らかです。大国が主導する戦争から派生する難民は、世界のどこからも「歓待」されず、狭いキャンプ地に幽閉される。そこを襲っている今回の新型コロナウイルス感染症。まさに現代世界の縮図が、ここに見られるのです。難民・避難民は絶えず流動します。移住労働者もヨリ良い仕事を求めて常に流動します。

感染症はひとの移動とともに、拡大します。超大国と先進国が、世界的な視野をもって、難民・避難民問題の解決に真剣に取り組むべきだとするのは、本来的には責任とモラルの問題なのですが、感染症がひとと共に移動するという現実を思えば、ほかならぬ先進国の《利害》に関わることでもあることがわかります。

五つ目。外出を避けよ、在宅仕事を行なえ、密・人混みを避けよ、対面を避けよ——いくつものスローガンを政治家が語っています。感染症の拡大を防ぐために、ある程度は有効な手段なのでしょう。同時に視野に入れておきたいことがあります。日本の場合、日常的な交通の手段である電車は動いています。日用品を買うためのスーパーもコンビニも開いています。今や日常生活に欠かせない役割を果たしている宅急便の労働者も、宅配便の増加でコロナ以前にもまして忙しく働いています。医療や介護の現場には、「密な」労働をする人、せざるを得ない人びとが大勢います。つまり、私たちが日常生活を送るうえで、それを支える最も基盤となる種類の労働に従事している人びとは、《外へ出て、対面で、密な労働》をせざるを得ないのです。加えて、そのような労働に従事する人びとが得る賃金が、現在の日本では決して多額ではない、むしろその労苦や他者への貢献度に比すれば不当なまでに低いことを私たちは知っています。オンライン会議やリモートワークという言葉で「新しい生活様式」だと安易に受け入れる前に、仕事の性格からいって、それができない人びとの労働と生活の在り方を思う気持ちを持ち続けたいと思います。

六つ目。永山則夫さんが犯した犯罪、逮捕されてのちの彼の自省・贖罪の過程、そして23年前の彼の刑死（死刑に処せられてこと）、彼が残した遺言——それらすべてに関わって私たち「永山子ども基金」の活動があります。密な場所と言えば、刑務所・拘置所が思い出されます。ここはどんな状態でしょ

うか。つい数日前のことですが、堺市にある大阪刑務所に拘留されている男性が、刑務所の3密状態は「命に関わる」と考えて、人身保護法を根拠に感染対策を求める訴えを起しました。哀しくも犯罪を起こしてしまった人びとが、自らの行為を内省し、贖罪の気持ちを深め、新たな生を求めるためには、拘留所・刑務所における処遇が、人権尊重の理念に基づいて行われていることが重要です。日本の場合はまた、在留資格を持たず退去強制命令を受けて入管施設に収容されている外国人が大勢います。彼ら・彼女らは、過密な施設の中で、基本的な人権も保障されないまま長期収容が続いています。コロナウイルスをめぐる一連の動きの中には、このように、拘留所・刑務所・入国管理センターなど、国家の責任においてひとを拘束している施設における人権状況の劣悪さを明るみに出すものもあるのです。



七つ目。死刑という問題も、コロナ状況下で新しい局面を迎えています。「密を避ける」コロナ対策という理由で、シンガポールやナイジェリアで、すでにズーム法廷によって死刑判決が出されています。公開法廷で対面しながら死刑判決を行なったとしても、その判決そのものが非人道的なのですが、ましてや、裁判官が直接に被告の顔を見ることもなく死刑判決を下すとは、すべてをコロナのせいにして持て囃されているオンライン会議、ズーム会議が使い方によっては持ちうる「非人間性」の極致に思えます。戦争での殺人行為について、よく言われる例があります。昔の戦争のように、相手方、いわゆる敵の兵士と刺し違えたり、銃殺したりするときには、

どうしても、心理的な圧迫感か抵抗感を覚える。だが、はるか上空から核爆弾を落としたり、米国内の軍事基地に居ながらにして、コンピューターの操作でアフガニスタンやイラクの人びとに無人機爆撃を加えたりするのは、抵抗感が少ない。米兵は、朝自宅で家族と朝食を共にし、基地に出勤して日中は遠隔操作で人殺しをし、夕食は再び家族と一緒に楽しく食べることができる。これは、米国がこの20年間近く展開してきている「反テロ戦争」の中の実話のひとつです。コンピューター時代に生きる私たちが持つ、避けることのできない側面が、これです。人間同士の接触を避け続けることは、ここまで行き着くのです。

さて、以上、コロナウイルスの猛威を前に右往左往する私たち人間の姿を、駆け足で眺めてきました。世界のどこであっても隈なく、生きとし生けるすべての人びとに関わってくるのが、この新型コロナウイルスのはたらしの特徴ですから、現われている現象のすべてにはおろか、大事なことすべてにすら触れるわけにはいきませんでした。皆さんの経験と知見、お考えに基づいて、ぜひとも、私が話したことを補っていただきたいと思います。

最後に、二つのことを。

一つ目。ここまでお話ししてきたことからわかるように、視線をどこに据えるのか、どんな声を聞き取るのか——その立場の違いは、これほどまでに異なる態度の選択を私たちに迫るのです。このように、いま起きている事態を冷静に眺めるならば、コロナウイルスの威力は確かに恐るべきものがあるが、すべてをコロナのせいにして、何もかもを一新することはできない。コロナ以前にも、差別と分断は、この世界に厳として存在していた。その課題に取り組むことを蔑ろにしてきたからこそ、私たちは、いま、コロナの脅威を前に、必要以上に狼狽しているのかもしれないと思います。コロナは、確かに差別と分断の傾向を広げつつある。コロナに対して取

るべき新たな方針もあるだろうが、だが、すべてをリセットして「新しい生活態度」などとそれを表現するのは、おかしい。コロナ以前にもあったこの社会の矛盾、弱肉強食という、グローバリズムの世界秩序の在り方自体が孕んでいた深刻な差別と分断の機能——それらが、コロナを通してよりいっそう明確な姿を取り始めたのだという認識が大切なのです。その意味で、「コロナに対応しつつ」も、「変わらぬ生き方」が肝心だと私は思います。

二つ目。差別と分断はどのように表われているか。コロナウイルスは見えない。見えないのに、どこか巧みに動き回って、人間の世界を攪乱する。見えるものには防衛策や防御策を講じる知恵を持つ人間も、見えないものには打つ手を持たない。ひたすら不安を抱え、疑心暗鬼に陥る。そこに登場するのが、使うも嫌な言葉「自粛警察」であり、感染症患者を「黴菌」と呼んだり、よそから来た人に向かって「この町から出ていけ！」と貼り

紙をしたりする行為です。不安に駆られた人びとは、ひたすら「強い」言葉を欲する。目に見える「敵」を欲しがる。コロナ危機に乗じて、政治的指導者、為政者の中には、内政的にも外交的にも強権的な言動に走る者が目立つのは、人びとのそのような心理を知っているからです。自民族中心の排外主義も、ここを好機と捉えて増長します。もっとソフトな言葉遣いをする政治家もいるでしょうが、その人物がしかるべき歴史観や文明観をもって「コロナと人類」の関係性を洞察する資質を持たない限り、この困難な時代に向き合うことはできないでしょう。誰にせよこんな時代を作り上げて、恬として恥じない現在の政治家たちに期待できる事柄ではないのですから、私たち一人ひとりが「個」として自立した動きを追求すること、その先にお互いが「類」として繋がり合う可能性を求めること、それが、か細くはあれ、私たちが歩むべき道だと思います。ご清聴、ありがとうございました。

④創作劇・コンサートの様子



水野慶子（創作劇）「パチャママよりコロナ禍の子どもたちへ」

新型コロナウイルスに振り回されながらも懸命に生きる子どもたちへメッセージを送りたいという気持ちから、絵本「パチャママしなないで」をもとに作り直されました。終わりの見えない不安の中で、つい自分中心の考えになってしまいますが、周りに目を向け優しい気持ちで人に接することが、元気な世の中になっていき、自由に生活できるようになるという思いが込められていました。

小川紀美代（バンドネオン演奏）「祈り」

バンドネオンを使って、ご自身で作曲された2曲と、アルゼンチンタンゴの古い曲を演奏してくださいました。どのような境遇にいても音楽は垣根を越えて、ストレートにみんなの心の中に入っていくと話して下さったように、そっと優しく聴いている方に寄り添う演奏に魅了されました。



宇佐照代（アイヌ民族楽器ムックリ・トンコリ）「継ぐ」

アイヌ民族楽器ムックリ・トンコリを使った演奏だけでなく、アイヌ語の唄も披露してくださいました。『ポロリムセ』という曲では、会場にいる方たちと身体を動かしたり、掛け合いをしたりしていくことで『輪』が広がっていき一体感が生まれました。会場に限らず画面越しでも輪が広がっていく様子は、テーマである「継ぐ」そのものでした。

木下尊惇（ギター・チャランゴ）「希望～Esperanza」

ギター・チャランゴを使って、4曲演奏してくださいました。人間は、栄養があるだけでは生きていけない。楽しい気持ち、人の役に立ちたい気持ちなどがあるからこそお互いの命が育まれていく、と心に響く演奏ばかりでした。



3人による特別セッション「平和に生きる権利」（ビクトル・ハラ）の演奏もありました。1971年にできた曲ですが、今に通じるものがあり、3人の各々の思いがひとつになった演奏は、大迫力で鳥肌が立ち、演奏が終わった後も、耳に心地よく残るものでした。

（レポート：永山子ども基金スタッフ 馬場萌実）

宇佐照代さんがアイヌの挨拶には「イランカラステ：あなたの心に触れさせてください」という言葉があると教えてくださいました。
私たちもこのイベントを通して皆さんの心に触れさせていただけますように…

奨学金支援報告

子ども・若者たちの生きる道

チャリティコンサート等で得られた資金はペルーの団体「インファント」を通じ、下記一覧にあるような子ども・若者たちの奨学金として活用されています。助成した若者たちの昨年の給付をご報告します。

永山奨学金使途 (2019・20年)

	氏名	給付開始時 年齢	都市	教育機関 / 専攻		期間	2019年 における学年	2019年 給付額	2020年 給付額
				教育機関	専攻				
1	Lorena Cerdan Roncal	23	Cajamarca	Privada del Norte大学	産業工学	5年間	2年目	2,500	2,500
2	Isela Garay Guerra	19	Cajamarca	Hermano Victorino Elorz Goicochea専門学校	教育	5年間	2年目	1,290	1,290
3	Nicolle de la Cruz Ñañez	18	Lima	間もなく受験	社会学	5年間	1年目	1,830	—
4	Franchesca Quispe	17	Lima	Británicos学習センター	英語		—	—	1,730
5	Annie Olivares Arescurenaga	20	Lima	La Cantuta大学	語学		2年目	1,730	1,730
6	Flor de Maria Concha Arbieta	22	Lima	Universidad la Catolica	政治学	5年間	2年目	2,430	—
7	Abel Daza Monteiro	28	Lima	Universidad Autonoma	システムエンジニアリング	5年間	1年目	3,150	3,150
8	Jean Pierre Orozco Ruiz	21	Iquitos	UCP-Univ.Cientifica del Peru		5年間	1年目	1,400	—
9	Josseline Narrea	23	Lima	Instituto San Ignacio de Loyola	総合コミュニケーション	3年間	修了	3,500	—
10	Oscar Fernandez	19	Lima	Universidad Tecnologica del Perú	産業工学	5年間	1年目	2,350	1,830
11	Allison Anampa Huamani	22	Ica	UN San Luis Gonzaga de Ica	法学	5年間	第7期	1,520	—
12	Lenin Sivipaucar Flores	27	Apurimac	Universidad Tecnologica de los	産業工学	5年間	第4期	1,520	950
13	Mauro Espinoza Del Pozo	23	Apurimac	Universidad Alas Peruanas	心理学	5年間	第5期	1,520	950
14	Yaquelin Sivipaucar Flores	19	Apurimac	Universidad Tecnologica de los	法学	5年間	第2期	1,520	950
15	Elizabeth Pariona Mina	20	Apurimac	Universidad Tecnologica de los	法学	5年間	第4期	1,520	950
16	Melissa Mozambite	16	Loreto	UNAP	システム	5年間	1年目	—	1,055
17	Jean Pierre	17	Loreto	SENATI	整備士	3年間	2年目	—	1,140
18	Lea Mayuma Linares	16	Loreto	SENATI	銀行会計	1年間	—	—	600

	氏名	給付開始時 年齢	都市	教育機関 / 専攻		期間	2019年 における学年	2019年 給付額	2020年 給付額
				教育機関	専攻				
19	Shirly Manuyama	18	Loreto	SENCICO	鍛冶・鉄枠	1年間	—	—	925
20	Conni Ruiz Pacaya	17	Loreto	SENCICO	鍛冶・鉄枠	1年間	—	—	925
21	Margarita Insapillo Rios	17	Loreto	SENCICO	鍛冶・鉄枠	1年間	—	—	925
22	Luisa Ramirez	17	Loreto	SENCICO	鍛冶・鉄枠	1年間	—	—	925
23	Randi Pinci Velasquez	18	Loreto	SENCICO	鍛冶・鉄枠	1年間	—	—	925
同行支援・物資・交通費								1,784	620
合計								29,564	24,070

※単位：S/. ソーレス（ペルーの通貨 1S/. = 0.27米ドル 2021年3月某日）



ペルーで働きながら学ぶ子どもたちへ
ひきつづき、ご寄付のご協力をお願いいたします。
ご寄付は、こちらの口座までご送金ください。

郵便振替口座 00190-3-183590

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)店
当座番号 183590

上記共通の口座名:永山子ども基金

緊急食糧支援報告

2020年6月 緊急食糧支援(第一弾)

— 永山子ども基金は、2020年6月8日、ペルー・マントックへ120万円の緊急支援金を送りました

(2020年7月ペルー・マントックからの報告より)

【状況】

ペルーは、中南米の中でもいち早く非常事態宣言を行い、国境を閉鎖し、検疫を実施して SARS-coV-2ウイルスの蔓延抑制にかかりました。3月15日以降、国の経済活動は本質的なものだけに限られています。ペルーの保健システムの大きな弱点と分断が、早期の緊急行動の主な理由です。これらの措置は、医療システムの調整と装備を改善し、感染率の爆発的な増加を防ぐための貴重な時間を稼ぎましたが、影響を受ける人々の数は増えていくと予想されています。ペルー社会には、深く多次元的な不平等があります。

国立統計情報研究所(INEI、2019年)の最新レポートによると、ペルーでは人口の20.5%に当たる、650万人が最貧困の中で生活しています。そして、40.1%という最も大きな人口が、いわゆる「中産階級」と言われる層であり、日収が4ドル以上10ドル未満の経済階層です。これは非常に大きな意味があります。この階層は特に経済ショックの影響を受けやすく、彼らの脆弱性は、雇用の分布を見るとより明らかです。ペルーの世帯の25%のみが正式な部門で仕事を持っています。つまり、生活の安定を保障するはずの労働基本権によっても、75%の世帯の仕事が守られていないのです。ペルーのほとんどの世帯は、日雇い収入がある非正規の一時的な仕事に完全に依存してい

ます。このような状況の中で、私たちペルーのMANTHOC,MNNATSOPは、働く子どもたちの 家族のための食糧支援を、永山子ども基金から受けました。



【支援金により届けられた食品セット】

家族向け食品籠に入っている食品は、米、砂糖、牛乳、レンズ豆、麺類、魚の缶詰、エンドウ豆、油、卵、鶏肉、マカロニ、ジャガイモなど、その地域ならではの必需品や、生活する中で特に重要なものです。これらの提供される食品は、NNATs(働く子どもたち)の家族の、一週間分の食事をまかさないです。

ペルーの10地域、291家族に食品籠を届けることができ、Covid-19のための措置で仕事と生存手段を失った、1164人の働く子どもたちや青年たちの食事を保証することができました。



Lima, 8 de agosto del 2020

Doctora
Kyoko Otani
Fundación Nagayama Norio.

Estimada Kyoko Otani.

A nombre de todos los niños, niñas y adolescentes trabajadores del MANTHOC y a nombre de sus familias, queremos saludarla y al mismo tiempo agradecer a la Fundación que usted dirige por el apoyo que nos han brindado en estos momentos difíciles que vivimos por el covid-19.

A través del señor y amigo Yutaka Yoshi estamos enviando el informe narrativo y económico con los documentos sustentatorios de los gastos realizados para concretar la distribución de las canastas de alimentos. También enviamos las listas de las familias beneficiadas.

De igual manera los niños, niñas y adolescentes con ánimos de mostrar cómo se realizó la distribución y conozcan a los beneficiarios decidieron elaborar un video que les hacemos llegar y esperamos sea de su agrado. También les enviamos también un flyer con las fotos y la cantidad de canastas que fueron distribuidas, así como la cantidad de niños por familias que fueron beneficiadas.

Finalmente reiterar el agradecimiento a todo su equipo de trabajo, miembros de la fundación al Señor Yutaka y todos los que hicieron posible esta entrega.

Cordialmente.

Cecilia Ramírez Flores
Presidenta Asoc.
MANTHOC

<2020年6月食糧支援> マントックからの お礼状と対訳

リマ、2020年8月8日

永山子ども基金

親愛なる大谷恭子さま

MANTHOCのすべての働く子どもたちと青年を代表して、そして彼らの家族を代表して、私たちはあなたに挨拶をすると同時に、COVID-19の困難な中に生きている私たちをご支援くださった、あなたが率いる基金に大変感謝しています。

私たちの友人である義井豊さんを通じて、食料籠の配布を実現するために要した費用の説明と経済報告書、恩恵を受けた家族のリストをお送りします。

私たちは、今回の配布がなぜ実現したかの事情を知らせ、食糧籠を受け取ることができたかを、ビデオに作成し子どもたちに配布しました。配布された食糧籠や、恩恵を受けた子どもたちの写真なども一緒に送ります。

最後になりましたが、この計画を実現させてくださった豊さん、基金の皆様、そして関係者の皆様に改めて感謝の意を表します。

セシリア ラミレス フロレス

マントック代表



食品籠を受け取った子どもたちの写真・動画メッセージや、コロナ禍における生活について子どもたちの生の声が[クシ・ブंक\(ペルーの働く子どもたちの支援団体\)のWEBページ](#)に紹介されています。

今、子どもたちがどんな生活を送り、どんなことを願っているのか。

リマ、山の地域、アマゾンを含めたペルー全国から届いた声をぜひ知ってください。



2021年2月 緊急食糧支援(第二弾)

— 永山子ども基金は、ペルー・マントックへ70万円の追加支援金を送りました

ペルーでのCOVID-19の状況は、2021年3月22日時点で感染者数148万1259人（前日比+8469人）、感染死亡者数累計5万474人（前日比+135人）と依然猛威をふるい続けています。厳しい外出制限で、働く子どもたちと家族は苦しい生活を強いられています。この状況を鑑み、永山子ども基金は2021年2月に再度 緊急食糧支援のための資金をペルーの働く子どもたち組織マントックへ送金しました。



Lima, 22 de febrero del 2021

Doctora
Kyoto Otani
Fundación Nagayama Norio.

Estimada Kyoko Otani.

A nombre de todos los niños, niñas y adolescentes trabajadores del MANTHOC y a nombre de sus familias, queremos saludarla y al mismo tiempo agradecer a la Fundación que usted dirige por el apoyo que nos han brindado en estos momentos difíciles que vivimos por el covid-19.

Así mismo queremos informarle que en nuestras cuentas hemos recepcionada la cantidad S/23,745.60 equivalente a \$ 6596, fondo con el que hemos podido atender a familias de Piura, Cajamarca, Lima y Cuzco a fin de que puedan afrontar las consecuencias que la pandemia y las medidas tomadas por el gobierno que obligó a muchos a perder su trabajo. Posteriormente estaremos enviando a través del señor y amigo Yutaka Yoshi el informe económico con los documentos sustentatorios de los gastos realizados para concretar la distribución de las canastas de alimentos.

Los niños, niñas y adolescentes con ánimos de mostrar cómo se realizó la distribución y conozcan a los beneficiarios decidieron elaborar un video que les hacemos llegar y esperamos sea de su agrado.

Finalmente reiterar el agradecimiento a todo su equipo de trabajo, miembros de la fundación, al Señor Yutaka y todos los que hicieron posible esta entrega.

Cordialmente.

Cecilia Ramírez Flores
Presidenta Asoc.
MANTHOC

<2021年2月食糧支援> マントックからの お礼状と対訳

Lima 2021年2月22日

永山子ども基金
親愛なる大谷恭子さま

MANTHOCのすべての働く子どもたちと青年を代表して、そして彼らの家族を代表して、私たちはあなたに挨拶をすると同時に、COVID-19の困難な中に生きている私たちをご支援くださった、あなたが率いる基金に大変感謝しています。

私たちはまた、口座にS/23,745.60（\$ 6596相当）を受け取りました。政府による感染対策の影響で多くの仕事を失ったピウラ、カハマルカ、リマ、クスコの家族を支援することが出来ました。後日友人の義井豊さんを通して食品籠の配布状況の経済報告書をお送りします。

子どもたちや青年たちは、配布の様子を見せたい、私たちの様子を知らせたいという思いから、今回はその様子を動画で作成することにしました。気に入っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、この度の支援を実現させてくださった基金の皆様、豊さんをはじめとする関係者の皆様に改めて心から感謝の意を表します。

セシリア ラミレス フロレス
マントック代表

【 私たちは死刑と貧困のない世界を目指します 】

宮崎はまゆう法律事務所

弁護士 前田 裕司

宮崎県宮崎市橋通西1丁目2-25
橋パークビル5階
Tel 0985-27-2220

三田パブリック法律事務所

弁護士 三澤 英嗣

東京都港区芝4-3-11
VORT三田駅前ビル2F
Tel 03-6809-5484

信和法律事務所

弁護士 浦城 知子

東京都港区西新橋1-23-9
河野ビル5階
Tel 03-3580-5618

立川フォートレス法律事務所

弁護士 高橋 俊彦

東京都立川市柴崎町2-12-24
MK立川南ビル4階
Tel 042-522-3580

東京ディフェンダー法律事務所

弁護士 藤原 大吾

東京都中央区日本橋小網町1-4
淳和ビル5階
Tel 03-5614-7690

白神法律事務所

弁護士 大庭 秀俊

秋田県能代市大町5-26
Tel 0185-88-8980

立川フォートレス法律事務所

弁護士 布川 佳正

東京都立川市柴崎町2-12-24
MK立川南ビル4階
Tel 042-522-3580

高野隆法律事務所

弁護士 須崎 友里

東京都千代田区神田佐久間町2-7
第6東ビル901
Tel 03-5825-6033

マイルストーン総合法律事務所

弁護士 岡田 浩志

東京都渋谷区上原3-6-6
オークハウス202
Tel 03-5790-9886

【 私たちは死刑と貧困のない世界を目指します 】

北千住パブリック法律事務所

弁護士 柳原 由以

東京都足立区千住3-98-1604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

練馬・市民と子ども法律事務所

弁護士 村中 貴之

東京都練馬区豊玉北6-14-1
川上ハイツ1階
Tel 03-5946-9989

立川フォートレス法律事務所

弁護士 贄田 健二郎

東京都立川市柴崎町2-12-24
MK立川南ビル4階
Tel 042-522-3580

吉田綜合法律事務所

弁護士 吉田 武男

東京都千代田区内神田2-11-6
共同ビル内神田6階
Tel 03-5256-6791

空と海そらうみ法律事務所
久慈事務所

弁護士 齊藤 拓

岩手県久慈市川崎町12番18号
YKビル1階
Tel 0194-611-818

八柱法律事務所

弁護士 菊地 信吾

千葉県松戸市日暮5-1-85
ミートップビル203号室
Tel 047-382-6173

北千住パブリック法律事務所

弁護士 酒田 芳人

東京都足立区千住3-98-1604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

四谷共同法律事務所

弁護士 塩生 朋子

東京都新宿区四谷2-11-4-4
Tel 03-3353-7771

北千住パブリック法律事務所

弁護士 寺岡 俊

東京都足立区千住3-98-1604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

【 私たちは死刑と貧困のない世界を目指します 】

立川フォートレス法律事務所

弁護士 竹内 明美

東京都立川市柴崎町2-12-24
MK立川南ビル4階
Tel 042-522-13580

Mの2法律事務所

弁護士 山田 恵太

東京都千代田区神田須田町1-2-1
カルフル神田ビル10階
Tel 03-6868-3660

北千住パブリック法律事務所

弁護士 渡辺 良平

東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

北千住パブリック法律事務所

弁護士 徳永 裕文

東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

ながさと総合法律事務所

弁護士 永里桂 太郎

鹿児島県鹿児島市西千石町6-21
オフショビルディング202
Tel 099-295-0185

アリ工法律事務所

弁護士 山本 彰宏

東京都千代田区神田須田町1-6
弓矢四国ビル4階
Tel 03-6869-3230

北千住パブリック法律事務所

弁護士 鈴木加奈子

東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

法律事務所ヒロナカ

弁護士 白井 徹

東京都千代田区麹町2-4
麹町鶴屋八幡ビル6階
Tel 03-3234-0507

立川フォートレス法律事務所

弁護士 船戸 暖

東京都立川市柴崎町2-12-24
MK立川南ビル4階
Tel 042-522-13580

【 私たちは死刑と貧困のない世界を目指します 】

信和法律事務所

弁護士 本間 博子

東京都港区西新橋1-23-9
河野ビル5階
Tel 03-3580-5618

弁護士法人ルミナス法律事務所

弁護士 田中 翔

埼玉県さいたま市大宮区宮町1-86-1
大宮イーストビル5階B室
Tel 048-826-5646

北千住パブリック法律事務所

弁護士 諸橋 仁智

東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

戸門法律事務所

弁護士 河崎 夏陽

東京都千代田区有楽町1丁目9番4号
蚕糸会館8階
Tel 03-6256-0468

緑橋通法律事務所

弁護士 丸山 冬子

北海道旭川市六条通8-36-25
セントラル旭川ビル2C
Tel 0166-74-8791

宮崎はまゆう法律事務所

弁護士 梶永 圭

宮崎県宮崎市橋通西1丁目2-25
橋パークビル5階
Tel 0985-27-2220

北千住パブリック法律事務所

弁護士 鵜飼 裕未

東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

【 私たちは死刑と貧困のない世界を目指します 】

くくな法律事務所
弁護士 馬場 望
東京都千代田区麹町3-10-2
CITY SPIRE 半蔵門1002
Tel 03-6256-9051

北千住パブリック法律事務所
弁護士 舩田 正
東京都足立区千住3-98-604
千住ミルデイスII番館
Tel 03-5284-2101

アリ工法律事務所
弁護士 牧田 史
東京都千代田区神田須田町1-6
弓矢四国ビル4階
Tel 03-6869-3230

栃木フォレスト法律事務所
弁護士 古山 弘子
栃木県栃木市昭和町6-19
さくらメゾン1階
Tel 0282-2517780

マイルストーン総合法律事務所
弁護士 前田 領
東京都渋谷区上原3-6-6
オークハウス202
Tel 03-5790-9886

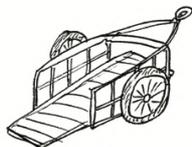
弁護士法人マイスタット法律事務所
弁護士 石田 純
東京都千代田区神田小川町2-1-3
中村ビル5階
Tel 03-5283-2455

首都東京法律事務所
弁護士 小川 弘義
東京都千代田区神田小川町3-26-8
ユニゾ神田小川町三丁目ビル7階
Tel 03-3518-9566

チャリティトーク・コンサートの足跡

永山子ども基金は2004年から毎年チャリティトーク&コンサートを開催し、その収益金を永山則夫の印税とともにペルーの働く子どもたちに送っています。以下はこれまでの開催記録の一覧です。

回数	日付	会場	ゲスト	収益金/カンパ/印税/ そのほか団体から
第1回	2004年 8月1日	北とぴあ	新谷のり子/ラス・フェンデス	307,000円/ 129,000円/ 64,000円
第2回	2005年 7月30日	北とぴあ	木下尊淳/橋本仁/春風亭華柳	373,000円/ 33,000円/ 94,000円
第3回	2006年 7月30日	北とぴあ	木下尊淳/橋本仁/犬伏青畝/スタジオ・パナス	420,000円/ 14,000円/ 66,000円
第4回	2007年 7月28日	川崎市産業振興会館	長谷川きよし/梁川トシヒロ	355,000円/ 145,000円/ 0円/ 神奈川シティユニオン 300,000円
第5回	2008年 8月1日	早稲田奉仕園	みつとみ敏郎/久保田修/新藤清子	329,000円/ 14,000円/ 157,000円・ 神奈川シティユニオン 300,000円
第6回	2009年 8月1日	YMCA アジア 青少年センタ ー	木下尊淳/笹久保伸/イルマ・オスノ・イジ ャネス/森達也/太田昌国	450,000円/ 50,000円/ 0円/ 神奈川シティユニオン 300,000円
第7回	2010年 7月31日	YMCA アジア 青少年センタ ー	東京朝鮮中高級学校民族管弦楽部/東京シ ュレ打楽器叩き隊/梶原徹也/井垣康弘 /薬師寺幸二/佐藤信一	100,000円/ 62,000円/ 338,000円 /神奈川シティユニオン 300,000円
第8回	2011年 7月30日	セルバンテス 文化センター	木下尊淳/菱本幸二/森川浩恵/太田昌国 /演劇グループセロ・ウアチパ	9,727円/ 171,262円/ 319,011円/ 神奈川シティユニオン 200,000円
第9回	2012年 7月22日	文京シビック センター・小 ホール	高橋悠治/水野慶子/笹久保伸/太田昌国	323,260円/ 176,740円/ 0円/ 神奈川シティユニオン 100,000円/ パチャママ基金 127,000円
第10回	2013年 7月27日	西片町教会	李政美/水野慶子/笹久保伸/太田昌国	142,634円/ 100,292円/ 257,074円 /神奈川シティユニオン 100,000円 /パチャママ基金 100,000円
第11回	2014年 7月26日	西片町教会	笹久保伸/イルマ・オスノ/山下洋平/青木 大輔/水野慶子/大熊ワタル/坂上香	38,450円/ 175,112円/ 286,438円 /パチャママ基金 100,000円
第12回	2015年 8月1日	YMCA アジア 青少年センタ ー	大熊ワタル/こぐれみわぞう/桜井芳樹/関 島岳郎/大谷恭子/水野慶子/笹久保伸	132,511円/ 85,000円/ 367,489円 /パチャママ基金 100,000円
第13回	2016年 7月30日	YMCA アジア 青少年センタ ー	アレハンドロ・クシアノビッチ神父/アニー・ ティディ・オリベラス/トミー・ラウラテ・ト ウアナマ/木下尊淳/菱本幸二/小川紀美 代/セロ・ウアチパ/水野慶子/宇佐照代	155,122円/ 169,210円/ 175,668円 /パチャママ基金 100,000円
第14回	2017年 7月29日	西片町教会	三上寛/石川義博/水野慶子/笹久保伸	379,821円 / 90,000円 / 30,179 円/パチャママ基金 100,000円
第15回	2018年 7月27日	早稲田奉仕園 スコットホー ル	木下尊淳/菱本幸二/松下隆二/佐野未来 /水野慶子/宇佐照代/太田昌国	-3,849円 / 182,420円 / 321,429 円/パチャママ基金 100,000円
第16回	2019年 7月27日	西片町協会	友川カズキ/水野慶子/宇佐照代/片山 徒有	231,789円 / 105,211円 / 18,770円 /パチャママ基金 100,000円・トラ ンチェンタム基金50,000円
第17回	2020年 9月27日	ダイニング街 なか (オンライン)	木下尊淳/小川紀美代/水野慶子/宇佐 照代/太田昌国	42,141円 / 85,000円 / 23,678円 /パチャママ基金100,000円・トラ ンチェンタム基金50,000円・ヴィ街 中10,000円



永山子ども基金はボランティアスタッフを募集しています。
働く子どもたちの支援のためのカンパも、宜しくお願いいたします。



郵便振替口座 00190-3-183590

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)店
当座番号 183590

上記共通の口座名:永山子ども基金

発行所
永山子ども基金

代表
大谷恭子

東京都千代田区神田須田町1丁目 弓矢四国ビル4F
アリエ法律事務所内
nagayamacf@gmail.com